

東京外かく環状道路の概要



全体計画

全体計画と幹線道路網図



[JCT・ICは仮称・供用区間は除く]

東京外かく環状道路は、都心から約15kmの圏域を環状に連絡する延長約85kmの道路であり、首都圏の渋滞緩和、環境改善や円滑な交通ネットワークを実現する上で重要な道路です。

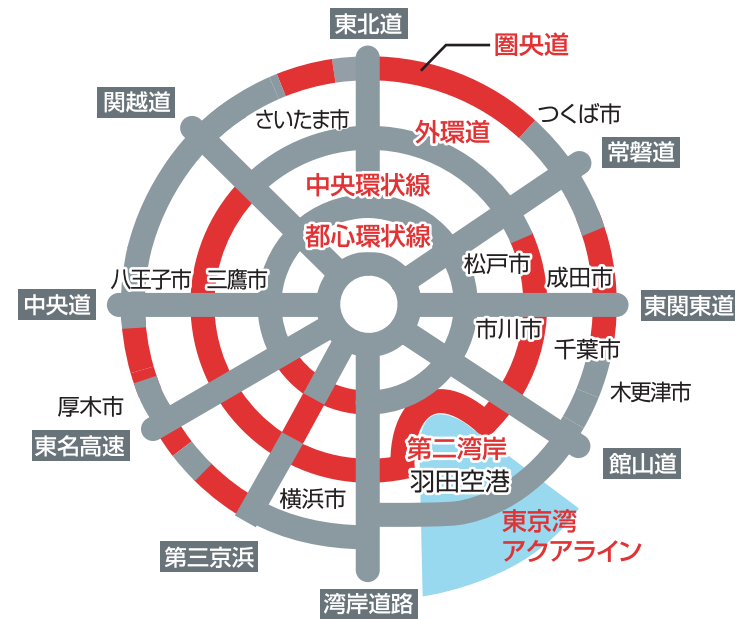
現在までに「自動車専用部(高速道路)」は、関越道と連絡する大泉JCTから三郷南ICまでの約34kmが供用されています。

関越道から東名高速までの約16kmについては、平成21年5月には、整備計画が策定され、さらに平成21年度補正予算が成立したことを受けて事業化しました。

また、平成24年4月には、東日本高速道路(株)、中日本高速道路(株)に対して有料事業許可がなされ、国土交通省と共同して事業を進めていくことになりました。

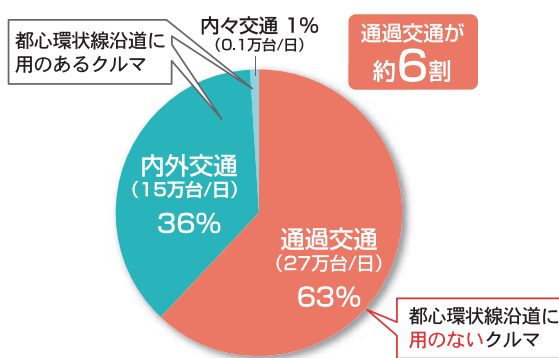
東名高速から湾岸道路までの約20kmについては予定路線に位置づけられています。

3環状9放射ネットワーク構想



首都圏の道路交通の骨格として、1963年に3環状9放射のネットワークが計画されました。以来、東名、中央、関越、東北道など放射方向の高速道路は整備されましたが、環状方向は整備が遅れています。その結果、都心に用いない交通が都心環状線に集中し、慢性的な渋滞が発生しています。3環状道路が整備されれば、この都心を通過するだけの交通を迂回させ、都心の渋滞解消が期待されます。

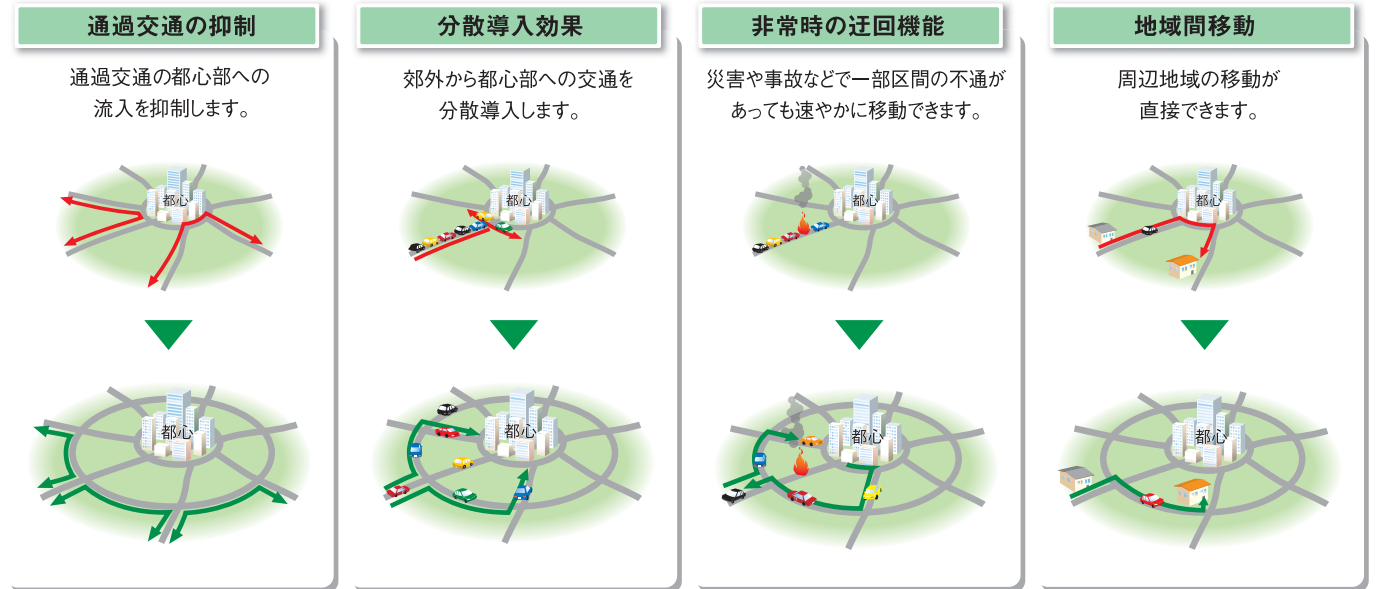
都心環状線を利用する交通の内訳



首都高速都心環状線(神田橋JCT)の状況

環状道路の機能・効果

環状道路には、様々な整備効果が期待できます。



経済成長めざましい東アジア。その成長を支えているインフラ整備

北京やソウルでは、通過交通の流入を抑制する環状道路は100%完成しており、東京と比べて高い整備水準となっています。

